

国語(現代文)

名古屋大学 理学部、医学部、農学部 (前期) 1/2

<総括>

出題数	現代文 1題	試験時間	45分
-----	--------	------	-----

ことばが人の心を支配し、動かしていくことについて論じた文章からの出題。昨年と同じく、記述問題4題と内容合致問題が出題された。昨年出題された抜き出し問題は出題されなかった。昨年と比べて記述量がやや増加し、解答がまとめづらい問題もみられたが、全体としての難易度は昨年並である。

<本文分析>

大問番号	□
出典 (作者)	『1人称単数の哲学』(八木雄二)
頻出度合 ・的中等	普通
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・ やや増加 ・増加) 昨年は3666字、今年は3941字で275字増加
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
□	評論	問一	漢字の読み書き	標準	特に難しいものはない。
		問二	記述	やや易	傍線部の直前の段落の内容をまとめればよい。
		問三	記述	標準	傍線部のある段落とその前2つの段落の内容をまとめればよい。
		問四	記述	やや難	3段落前の内容も踏まえて答える必要がある。解答がややまとめづらい。
		問五	記述	やや難	本文前半の内容も踏まえて考えなければならない。解答がややまとめづらい。
		問六	客観	易	本文の内容に合致するものを2つ選ぶ。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

国語(現代文)

名古屋大学 理学部、医学部、農学部 (前期) 2/2

<学習対策>

問題集や過去問を利用して、評論に触れて読解力を養うとともに、記述問題の練習を十分に積んでおくこと。
漢字の読み書きについても対策を怠らないようにしておくこと。